

**第4期嶺北地域アクションプランの進捗状況等について  
令和2年度嶺北地域アクションプランの修正項目（案）**

**嶺 北 地 域 本 部**

**令和2年9月23日（水）**

## 嶺北地域アクションプランの進捗状況等

R2.9.23

嶺北地域本部

### 1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

#### (1) 総評

嶺北地域アクションプラン（25項目）については、嶺北4町村において相互に関連する取り組みや、4町村全てに関わる取り組みが多いことから、常に連携を図りつつ、各町村のまち・ひと・しごと創生総合戦略等の取り組みとベクトルを合わせながら推進している。

また、これまで地域アクションプランの取り組みと連携させた畜産と林業の2つの地域産業クラスターに加えて、新たに農業クラスターを追加することで、地域へのさらなる波及効果を生み出すべく取り組みを進めている。

世界的な新型コロナウイルス感染症拡大に伴う全国的な経済活動の停滞や地域間交流の減少により、当地域でも4月～6月期においては、営業活動の制限や生産活動の停滞、各種施設の営業休止があり、販売額の落ち込みや交流人口の減少が各所で見られたが、緊急事態宣言が解除されて以降、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた営業・生産活動の拡大や観光・宿泊施設の再開の動きも出始めるなど、徐々に各分野において本格的な経済活動の再開の兆しが見られる。

農業分野では、3町のJA出資法人等が中山間農業複合経営拠点として策定（1法人は策定中）した事業戦略に基づく取り組みを進めており、また、ブランド米や地域で代々受け継がれてきた銀不老などの生産の拡大を図りながら取り組みを進めている。

畜産分野では、土佐あかうしの増頭が順調に進んでいるほか、大川黒牛の生産体制の強化に向けて取り組みを進めている。また、昨年度にはHACCPに対応した土佐はちきん地鶏の食鳥処理・加工施設を整備し、生産から加工・販売までの一貫体制を確立し、県内をはじめ大都市圏での販路拡大に取り組んでいる。

林業分野では、さらなる原木増産や安定供給を図るとともに、木質バイオマス発電施設の整備など、地域内での連携した取り組みや森林組合への支援に取り組んでいる。また、集落活動センター西峯におけるスギのコンテナ苗は、集落の基幹ビジネスとなるように生産技術の向上や栽培量の拡大に取り組んでいる。

観光分野では、昨年度開催された「土佐れいほく博」の成果と課題を踏まえながら、4町村及び地域内の観光関係者のさらなる連携を図るために、広域観光に対応する体制づくりを進めるとともに、アウトドアビレッジ等の拠点施設を中心に、体験型の観光資源の開発に取り組み、さらなる交流人口の拡大に取り組んでいる。

そのほか、地元産の酒米にこだわった日本酒の販路拡大に向けて、昨年度に新たに整備した工場において増産に取り組むとともに、国内外での営業活動や地元酒米農家の確保に取り組んでいる。

(2) 具体的な動き

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 5 銀不老による地域活性化の取り組み (大豊町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・大豊町銀不老生産組合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)城西館</li> <li>・大豊町</li> </ul>	<p><b>[指標]</b></p> <p>出荷量</p> <p>出発点 (H30) : 0.59t</p> <p>到達目標 (R2) : 0.6t</p> <p>目標 (R5) : 1.2t</p> <p><b>[取り組み状況]</b></p> <p>出荷量 (R2.6月末) : 0.12t (対前年同期比 : -%)</p> <p>※昨年度の同時期出荷量は 0t</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大豊町銀不老生産組合設立 (R2.3月)</li> <li>・区長便や町内一斉放送による銀不老生産の呼びかけ (5月～6月)</li> </ul> <p>組合員登録数 39人 (R元 : 種子配布者 30人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大豊町銀不老生産組合総会 (種子配布会) を開催 (6月)</li> </ul> <p>種子 25kg を配布 (R元 : 12kg)</p> <p><b>[課題と今後の対応]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な運営体制の確立及び銀不老の普及活動 ⇒新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら、組合員相互の意見交換、情報共有を進めるとともに、イベント等を開催し、さらなるブランド化を進めていく。</li> <li>・栽培技術等の普及・指導 ⇒新たな栽培者の確保に向けて、普及・指導の会議等の開催を実施していく。</li> </ul>
<p>■No. 6 本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト (本山町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・エフビットファームこうち(株)</p> <p>◎・施設野菜農家</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本山町</li> <li>・(一財)本山町農業公社</li> <li>・JA 高知県 (土長地区)</li> </ul> <p>※地域産業クラスター関連 (本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト)</p>	<p><b>[指標]</b></p> <p>(1) 施設野菜出荷量</p> <p>出発点 (H30) : 107t</p> <p>到達目標 (R2) : 107t</p> <p>目標 (R5) : 360t</p> <p>(2) 新規就農者数 (施設野菜 : 雇用就農含)</p> <p>出発点 (H28～R元) : 1人</p> <p>到達目標 (R2) : 6人</p> <p>目標 (R2～R5) : 6人</p> <p><b>[取り組み状況]</b></p> <p>(1) 施設野菜出荷量 (R2.6月末)</p> <p style="text-align: right;">: 14.7t (対前年同期比 : 151.5%)</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>(2) 新規就農者数 (R2.6月末) : 1人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・剪枝剪定実証圃の設置 (甘長トウガラシ、1箇所)</li> <li>・「スマート農業推進協議会」の開催 (2回)</li> <li>・加工商品開発の検討会 (3回)</li> <li>・本山さくら市でのおむすびテスト販売 (6月)</li> </ul> <p><b>[課題と今後の対応]</b></p> <p>○施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JA 高知県れいほく園芸部の品目ごとの現地検討会と連携した活動の実施 ⇒環境測定・日射比例制御かん水・自動開閉装置等の導入に関する情報提供や作業軽減に向けた実証実験を行い、各農家のニーズに応じた支援をしていく。</li> <li>・次世代型園芸用ハウスの施設整備に合わせた人材育成、雇用者募集の実施 ⇒施設整備スケジュールに合わせ、人材確保について検討を進める。</li> </ul> <p>○産地力強化のための担い手の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JA 高知県れいほく園芸部の担い手支援と連携した活動の実施 ⇒JA や生産部会等から情報を収集し、水田等の農地情報や、空きハウスなどの情報を担い手に提供していく。</li> </ul> <p>○二次・三次産業との連携の具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスター形成による関係二次・三次産業への経済波及効果の拡大 ⇒パブリカ規格外品の活用に向けた加工品の開発の検討や、施設を活用した農業体験ツアー等の検討を進めていく。</li> </ul>
<p>■No.9 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産の活性化 (大川村)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎・(株)むらびと本舗</li> <li>◎・(一社)大川村ふるさとむら公社</li> <li>・大川村</li> </ul>	<p><b>[指標]</b></p> <p>(1) 黒牛の販売額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出発点 (H30) : 7100万円</li> <li>直近値 (R元) : 5,485万円</li> <li>到達目標 (R2) : 5,405万円</li> <li>目標 (R5) : 7,500万円</li> </ul> <p>(2) はちきん地鶏の出荷羽数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出発点 (H30) : 7.4万羽</li> <li>直近値 (R元) : 7.6万羽</li> </ul>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>※地域産業クラスター関連（嶺北畜産クラスタープロジェクト）</p>	<p>到達目標（R2）：－ 目標（R5）：12.5万羽</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 黒牛の販売額（R2.6月末） ：894万円（対前年同期比：67.8%）</p> <p>(2) 出荷羽数（R2.6月末） ：1.25万羽（対前年同期比：65.7%）</p> <p>○黒牛</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷頭数：10頭（6月末）</li> </ul> <p>○はちきん地鶏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県和牛肉等販売促進緊急対策事業（農産物マーケティング戦略課事業：県6月補正予算）による在庫処分（7.5t）</li> <li>・はちきん地鶏事業の推進体制の強化に向けたデューデリゼーション開始（7月～）</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○黒牛</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繁殖雌牛の増頭 ⇒一貫生産体制の充実に向けた体制や牛舎増築等の検討</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響による販売の落ち込み ⇒オンラインを活用した販売促進イベントなど新たな取り組みの検討を行う。</li> </ul> <p>○はちきん地鶏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はちきん地鶏事業推進体制の強化 ⇒デューデリゼーションの実施により、経営上の課題点等を分析し、事業の推進体制の強化につなげる。</li> </ul>
<p>■No. 12 嶺北地域内のシソ・ユズの活用による地域振興（本山町）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(有)さめうらフーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集落活動センター汗見川</li> <li>・生産者</li> </ul>	<p>[指標]</p> <p>シソ・ユズ商品の販売額</p> <p>出発点（H30）：0.65億円</p> <p>到達目標（R2）：0.65億円</p> <p>目標（R5）：1億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>シソ・ユズ商品の販売額（R2.6月末）：0.18億円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新工場に導入する機械設備の検討（4月～）</li> <li>・新商品の開発（しそゼリー等）（4月～）</li> </ul>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汗見川地域とシソ生産量について協議 (5月)</li> <li>・耕作放棄されたゆず農園の情報収集 (7月)</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新工場に導入する機材の検討 ⇒新工場の核となるペットボトル充填機の機種決定 その他の導入機材についても、新たに開発する商品カテゴリーを決定後、速やかに選定を進める。</li> <li>・新商品の開発 ⇒「しそチューハイキャンペーン」(町内居酒屋等で開催)に使用する「チューハイシロップ」の製造に向けて商品開発を行う。</li> </ul>
<p>■No. 17 嶺北地域で140年間続く酒蔵の地産外商を核とした地域活性化(土佐町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・土佐酒造(株)</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 売上高  出発点 (H30) : 1億5,067万円  直近値 (R元) : 1億5,066万円  到達目標 (R2) : 1億8,500万円  目標 (R5) : 2億2,000万円</p> <p>(2) 地元産原料米調達量  出発点 (H30) : 88t  直近値 (R元) : 101t  到達目標 (R2) : 105t  目標 (R5) : 125t</p> <p>(3) 従業員数  出発点 (H30) : 15人  直近値 (R元) : 16人  到達目標 (R2) : 19人  目標 (R5) : 25人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 売上高 (R2.6月末)  : 10,665千円 (対前年同期比 : 24.8%)</p> <p>(2) 地元産原料米調達量 (R2.6月末) : 0t  ※調達時期ではないため、調達量が0tとなっている。</p> <p>(3) 従業員数 (R2.6月末) : 16人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まるごと高知オンラインショップでのコレクト販売 (4月)</li> <li>・オンラインショップで高濃度エタノールとセットにした</li> </ul>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>家飲み限定セット販売 (5月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS 等で産地の風景や酒造りの様子が分かる PR 動画の公開 (5月)</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国内外での販路拡大 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による各種商談会の中止</li> <li>⇒販路拡大に向けて、顧客と交流を行うことができるオンライン上での仕組等を検討していく。</li> </ul> </li> <li>○地元産原料米の調達拡大 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土佐町酒米生産拡大交付金を活用した酒米農家への対応</li> <li>⇒同交付金を活用して酒米生産を始めた農家による生産拡大を通じて、酒米のさらなる確保に取り組んでいく。</li> </ul> </li> <li>○雇用の創出及び地域活性化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各団体ツアーの受入態勢の強化等</li> <li>⇒新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、ツアー受入態勢を整えていく。</li> </ul> </li> </ul>
<p>■No. 18 大豊町のジビエを活用した新たな商品開発と販路拡大 (大豊町)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎・猪鹿工房おおとよ</li> <li>◎・燈ので家</li> <li>・大豊町商工会</li> </ul>	<p>[指標]</p> <p>(1) 処理頭数 (猪鹿工房おおとよ)</p> <p>出発点 (H30) : 163 頭</p> <p>到達目標 (R2) : 200 頭</p> <p>目標 (R5) : 300 頭</p> <p>(2) 出荷量 (燈ので家)</p> <p>出発点 (H30) : 0t</p> <p>到達目標 (R2) : 1.8t</p> <p>目標 (R5) : 2.1t</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 処理頭数 (R2.6月末) : 32 頭 (対前年同期比 : 58.1%)</p> <p>(2) 出荷量 (R2.6月末) : 0.135t (対前年同期比 : -%)</p> <p>※昨年度の同時期出荷量は 0t</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○猪鹿工房おおとよ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT を活用した捕獲技術の実践 (4月～)</li> <li>・ オンライン販売に向けた HP リニューアルの検討(4月～)</li> </ul> </li> </ul>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新商品の開発 (4月～)</li> </ul> <p>○燈ので家</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商談会への参加 (R2.2月)</li> <li>・産業振興アドバイザーによる支援 (2回)</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○猪鹿工房おおとよ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材確保 ⇒新商品の開発や生産体制の拡充に向けて、必要な人材確保の検討を進めていく。</li> <li>・捕獲個体の品質管理の強化 ⇒トレーサビリティシステム導入など先進的な個体管理手法の検討を進め、品質管理の強化に取り組む。</li> <li>・ICTを活用した新たな捕獲技術の導入 ⇒通年で安定的な捕獲ができる体制を構築する。</li> <li>・加工品の開発及び販促活動の推進 ⇒新たな顧客獲得に向けて、HP等によるオンライン販売を行う。</li> </ul> <p>○燈ので家</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットフードの生産及び販路拡大 ⇒産業振興アドバイザーの助言に基づき、首都圏でのテストマーケティング等を実施し、生産及び販路拡大に向けた取り組みを検討していく。</li> </ul>
<p>■No. 19 嶺北地域の連携による交流人口の拡大 (嶺北地域全域)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・土佐れいほく観光協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本山町</li> <li>・大豊町</li> <li>・土佐町</li> <li>・大川村</li> </ul> <p>※地域産業クラスター関連 (嶺北畜産クラスタープロジェクト)</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 主要観光施設の入込客数</p> <p>出発点 (H27～H29 平均) : 284,813 人</p> <p>直近値 (R 元) : 282,154 人</p> <p>到達目標 (R2) : 167,000 人</p> <p>目標 (R5) : 391,000 人</p> <p>(2) 主要宿泊施設宿泊者数</p> <p>出発点 (H27～H29 平均) : 14,577 人</p> <p>直近値 (R 元) : 18,946 人</p> <p>到達目標 (R2) : 12,000 人</p> <p>目標 (R5) : 25,000 人</p> <p>(3) 民泊受入世帯数</p> <p>出発点 (H30) : 89 世帯</p> <p>直近値 (R 元) : 86 世帯</p> <p>到達目標 (R2) : 93 世帯</p> <p>目標 (R5) : 120 世帯</p>



項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 主要観光施設の入込客数 (R2.6月末) : 50,936人 (対前年同期比: 62.2%)</p> <p>(2) 主要宿泊施設宿泊者数 (R2.6月末) : 1,415人 (対前年同期比: 24.0%)</p> <p>(3) 民泊受入世帯数 (R2.6月末) : 87世帯 (対前年同期比: 85.2%)</p> <p>○広域観光組織の立ち上げに向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4町村長による広域観光組織設立の決定 (5月)</li> <li>・「土佐れいほく観光協議会」(任意団体)の設立 (6月)</li> <li>・高知県広域観光推進事業費補助金の申請 (7月)</li> </ul> <p>○教育旅行の推進に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関東圏など大都市圏におけるセールス活動の準備</li> </ul> <p>○嶺北畜産クラスターに関連した取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育旅行における嶺北畜産物の利用促進の検討</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐れいほく観光協議会の各種事業の実行 ⇒嶺北地域の情報発信やセールス活動を行うとともに地域の観光人材育成のための研修等の実施をしていく。 ⇒12月には協議会を法人化し、第二種旅行業登録を行い、地域内の旅行商品の造成・販売を行う体制を構築する。</li> <li>・教育旅行の推進体制の整備 ⇒地域の活動者や行政との連携による研修会の開催を行い、農家等民泊受入家庭を確保するとともに、安全管理や体験交流メニュー等民泊の品質向上対策に取り組んでいく。 ⇒新型コロナウイルス感染症の流行状況等を考慮しながら、キャラバンセールス等の販売活動の実施を検討していく。</li> </ul>
<p>■No. 20 嶺北広域観光アウトドアの里づくり (嶺北地域全域)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・本山町</p> <p>・大豊町</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) モンベルアウトドアヴィレッジ本山の利用者数 出発点 (R元.7~11月): 38,451人 到達目標 (R2): 50,000人 目標 (R5): 50,000人</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐町</li> <li>・大川村</li> <li>・本山町白髪山・工石山保全活用推進協議会</li> </ul> <p>※地域産業クラスター関連（本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト）</p>	<p>(2) 白髪山・工石山への観光客数  出発点（H28～30 累計）：54 人  直近値（H28～R 元累計）：147 人  到達目標（R2）：160 人  目標（R5）：200 人</p> <p><b>[取り組み状況]</b></p> <p>(1) モンベルアウトドアヴィレッジ本山の利用者  (R2.6 月末)：6,745 人</p> <p>(2) 白髪山・工石山への観光客数 (R2.6 月末)：0 人</p> <p>○アウトドア拠点施設の誘客対策  ・アウトドアヴィレッジ本山と本山町の営業活動等の協議（6 月～）</p> <p>○白髪山・工石山への誘客促進  ・モンベルが作成した登山やサイクリングルートマップを観光施設に配布（4 月～）</p> <p><b>[課題と今後の対応]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトドア拠点施設の円滑な運営  ⇒町と指定管理者との定期的な協議を継続し、課題となっている団体宿泊棟の活用を図っていく。</li> <li>・嶺北広域での事業展開  ⇒土佐れいほく観光協議会等との連携を進め、域内観光資源を活用した体験型観光商品等を造成していく。</li> <li>・登山ルートの整備及びガイド育成  ⇒体験プログラムの実施と並行してガイド人材の育成を図っていく。</li> </ul>
<p>■No. 21 嶺北地域における山岳観光の推進  （嶺北地域全域）</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎・大川村</li> <li>◎・（一社）大川村ふるさと公社 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本山町</li> <li>・大豊町</li> <li>・土佐町</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>[指標]</b></p> <p>白滝の里施設利用者数  出発点（H30）：9,071 人  直近値（R 元）：10,597 人  到達目標（R2）：－  目標（R5）：15,000 人</p> <p><b>[取り組み状況]</b></p> <p>白滝の里施設利用者数（R2.6 月末）  ：11 人（対前年同期比：0.34%）</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「でいぐ！大川村」HP 及び Facebook 情報発信（4月～）</li> <li>・星空観察会、登山ツアー等のイベント実施（7月～）</li> </ul> <p><b>[課題と今後の対応]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規プログラムの開発及び既存プログラムの磨き上げによる山岳観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒サイクリングやさめうら湖面を活用した体験プログラムの造成及び運営支援の業務委託を検討していく。</li> </ul> </li> <li>・人材の育成・確保（プロジェクトリーダー等） <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒地域おこし協力隊の活用、民間企業を活用した専門研修やOJT研修の実施を進めていく。</li> <li>⇒(株)ソラヤマいしづちの人材育成事業への参加</li> </ul> </li> </ul>
<p>■No. 22 さめうら湖の活用をはじめとしたスポーツ・ツーリズムの振興（土佐町）</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎・土佐町</li> <li>◎・民間事業者等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大川村</li> <li>・本山町</li> <li>・大豊町</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>[指標]</b></p> <p>(1) さめうら荘利用者数</p> <p>出発点 (H30) : 15,961 人</p> <p>直近値 (R元) : 19,000 人</p> <p>到達目標 (R2) : 25,000 人</p> <p>目標 (R5) : 28,000 人</p> <p>(2) カヌー拠点施設利用者数</p> <p>出発点 (H30) : 0 人</p> <p>到達目標 (R2) : 380 人</p> <p>目標 (R5) : 1,520 人</p> <p><b>[取り組み状況]</b></p> <p>(1) さめうら荘利用者数 (R2.6月末)</p> <p style="padding-left: 40px;">: 2,436 人 (対前年同期比 : 37.0%)</p> <p>(2) カヌー拠点施設利用者数 (R2.6月末) : -</p> <p>○さめうら荘への誘客</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPの開設、オンライン予約の開始（5月～）</li> <li>・経営戦略策定に向けたアドバイザーの導入（6月）</li> </ul> <p>○さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カヌーアカデミーの実施（4月～）</li> <li>・カナディアンカヌーツアーのコース造成（6月～）</li> </ul> <p>○カヌー拠点施設への誘客</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPプレオープン（5月～）</li> <li>・地域おこし協力隊（ガイド）2名雇用（6月～）</li> </ul>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して利用者が訪れる取り組みの構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒カヌー拠点施設 (R2.8月下旬オープン) の円滑な運営に向けて体制の強化を進めていく。</li> <li>⇒湖面・湖畔アクティビティ等の観光商品磨き上げや、森林公園等の周辺施設の整備の検討を進めていく。</li> </ul> </li> </ul>
<p>■No. 25 集落活動センター汗見川による地域活性化の取り組み (本山町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・汗見川活性化推進委員会</p> <p>・本山町</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 宿泊者数 (延べ)</p> <p>出発点 (H30) : 838 人</p> <p>直近値 (R 元) : 892 人</p> <p>到達目標 (R2) : 1,400 人</p> <p>目標 (R5) : 1,400 人</p> <p>(2) シソ原液出荷量</p> <p>出発点 (R 元) : 7,092L</p> <p>到達目標 (R2) : 9,000L</p> <p>目標 (R5) : 9,000L</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 宿泊者数 (R2.6月末) : 0 人</p> <p>(2) シソ原液出荷量 (R2.6月末) : 0L</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響のため、宿泊者数が 0 となっており、調達時期ではないためシソ原液出荷量が 0 となっている。</p> <p>○大阪市西区との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学生向け「副読本」の作成に向けて協議 (5月～)</li> </ul> <p>○イベント及び体験メニューの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファンクラブの会員募集 (4月～) 現在 22 名</li> <li>新型コロナウイルス感染症対策 (アドバイザー導入) の実施 (6月～)</li> </ul> <p>○シソの生産拡大及び加工品の販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>栽培マニュアルの作成 (4月～)</li> <li>さめうらフーズと連携した新商品の検討 (4月～)</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○大阪市西区との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連携したイベントへの出展 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒新型コロナウイルス感染症流行の影響により、西区におけるイベントへの参加が難しくなっている状況</li> </ul> </li> </ul>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>だが、小学生向け副読本の作成を含めたその他の活動を進め、西区との交流拡大に向けた協議を進めていく。</p> <p>○イベント及び体験メニューの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期のイベント開催</li> <li>⇒国の新型コロナウイルス感染症対策のガイドライン等に沿った新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、早期のイベント開催を検討していく。</li> </ul> <p>○シソの生産拡大及び加工品の販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培マニュアルの作成</li> <li>⇒町内の他エリアでの生産拡大に向けて、栽培マニュアルの作成を進めていく。</li> </ul>

2 令和2年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）  
該当なし

3 地域アクションプランの追加、修正、削除（自立、成長戦略、その他）（予定）項目  
 [修正] ■No.3 ブランド米「土佐天空の郷」の販売促進  
 （理由）水田センサーの設置については、作業負担軽減に加え、品質管理の向上に寄与することが見込まれるため、品質管理向上の文言を追加する。  
 ■No.19 嶺北地域の連携による交流人口の拡大  
 （理由）実施主体として、任意団体である土佐れいほく観光協議会が今年6月下旬に設立されたことに伴い、文言の修正を行う。

4 県民参画に向けた取り組み  
 ・嶺北地域各関係団体（商工会、森林組合、観光協会等）へ第4期計画 ver.1 の説明（6月中旬以降）

5 相談案件：0件

NO.	相談日	事業種別	相談内容

# 修正項目 (案)

修正前

嶺北地域アクションプラン		分野	農業
AP 名 (実施地域)	No.3 ブランド米「土佐天空の郷」の販売促進 (本山町)		
実施主体	◎ 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社、本山町		
AP への 位置づけ	H21.4 月		
事業概要	農家の高齢化によって、(一財)本山町農業公社が管理する農地面積は増加している。公社では農地を守るため、米の販売価格の向上を目指し、ブランド米「土佐天空の郷」の生産安定と販路拡大、ブランド力の向上や省力化を目的としたスマート農業に取り組む。		

指標	出発点	実績					目標
	R 元	R2	R3	R4	R5	R5	
「土佐天空の郷」 「天空の棚田米」 合計販売額	0.6 億円					1 億円	

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆ブランド米の生産維持、販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業公社が全量買い取りする仕組みの構築(H21)</li> <li>・ブランド化に向けた栽培技術の向上</li> <li>・ブランド米の生産増、販売拡大</li> <li>・販売促進に向けた取り組み(H22～)</li> <li>・コンクールへの出品(H21～)</li> <li>・消費者との交流(田んぼアート等)による産地のファンづくり</li> <li>・耕作放棄地の解消を目指した農地借り入れ、農作業受託の拡大、受託料金等の見直し</li> <li>・定期的な研修会の開催、生産誘導による人材の育成確保</li> <li>・色彩選別機、食味計等の導入(H21～23)</li> </ul> <p>◆スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水田センサー等を活用した水稻栽培管理の省力化と品質向上の検討(H29、水田センサー100台導入)</li> <li>・水田センサー、ほ場管理アプリケーションの導入(H29)</li> <li>・ドローンによる葉色測定・生育診断</li> </ul> <p>◆おにぎり製造販売事業等による収益拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本山町みらい創造協議会策定委員会によるおにぎり事業展開に向けた検討(R元～)</li> </ul>	<p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <p>◆ブランド米の地位を確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「お米日本一コンテスト in しずおか」で受賞(H22:最優秀賞、H27:金賞、H28:実行委員会会長賞(特別最高金賞))</li> <li>・(一財)日本穀物検定協会の食味ランキングで高知県北地区「にこまる」が特 A 受賞(H29、30)</li> <li>・米専門店を中心に取引先が全国 100 店舗以上に拡大</li> </ul> <p>◆生産者価格(玄米一等米)の向上</p> <p>10,000 円/30kg(～H28) → 10,250 円/30kg(H29～)</p> <p>◆スマート農業の推進</p> <p>水位センサーによる、水の見回り負担の軽減 「ヒノヒカリ」、「にこまる」の収穫適期指標の作成</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者の確保や需要に対する生産量不足への対応</li> <li>・栽培基準の見直し</li> <li>・スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化</li> <li>・農業公社の収益拡大</li> </ul>

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
<p>◆ブランド米の生産維持、販売促進</p>	<p><b>「土佐天空の郷」栽培基準の見直し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社： 栽培基準の見直しに関する会議の開催</li> <li>● 県（農業改良普及所等）： 栽培基準見直しに向けた実証支援</li> </ul>		<p><b>見直された「土佐天空の郷」栽培基準の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社： 安定生産支援、販売促進活動</li> <li>● 県（農業改良普及所等）： 個別巡回、現地検討会、個人面談による栽培管理指導</li> </ul> <p><b>生産者の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社： 本山町特産品ブランド化推進協議会役員による新規栽培者への栽培技術指導 農作業受託による作業労力の軽減</li> <li>● 県（農業改良普及所等）： 本山町特産品ブランド化推進協議会役員、公社と連携した生産者募集、栽培技術習得支援、 集落営農組織等との連携支援</li> </ul>		
<p>◆スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化</p>	<p><b>作業労力軽減技術の検討、普及</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社、本山町： 省力機器の検討及び普及（育苗、田植え、防除等） 水田センサーを活用した水管理軽減技術、通信費コスト削減等の検討 事業等の活用による省力機器等の普及</li> <li>● 県（農業改良普及所等）： 企業、関係機関との連携による新技術、各種情報の提供、省力機器等の実証及び導入支援</li> </ul>				
<p>◆おにぎり製造販売事業等による収益拡大</p>	<p><b>おにぎり屋開業の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● (一財)本山町農業公社： 事業計画の策定、おにぎり具材の試作品づくり、試験販売の実施</li> <li>● 県（地域本部等）： 事業計画策定に対する助言、商品開発に関する産振アドバイザー等による支援</li> </ul>	<p><b>開業準備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● (一財)本山町農業公社： おにぎり事業の株式会社設立、おにぎり屋の整備</li> <li>● 県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>	<p><b>おにぎり屋の営業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● (一財)本山町農業公社： PR活動の実施、商品改良</li> <li>● 県（地域本部等）： PRやブランディング戦略に関する産振アドバイザー等による支援、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		

<b>AP 名 (実施地域)</b>	<b>No.3 ブランド米「土佐天空の郷」の販売促進</b> (本山町)
<b>実施主体</b>	◎本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社、本山町
<b>AP への 位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	農家の高齢化によって、(一財)本山町農業公社が管理する農地面積は増加している。公社では農地を守るため、米の販売価格の向上を目指し、ブランド米「土佐天空の郷」の生産安定と販路拡大、ブランド力の向上や省力化を目的としたスマート農業に取り組む。

指標	出発点	実績					目標
	R元	R2	R3	R4	R5	R5	
「土佐天空の郷」 「天空の棚田米」 合計販売額	0.6億円					1億円	

これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>ブランド米の生産維持、販売促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業公社が全量買い取りする仕組みの構築(H21)</li> <li>・ブランド化に向けた栽培技術の向上</li> <li>・ブランド米の生産増、販売拡大</li> <li>・販売促進に向けた取り組み(H22～)</li> <li>・コンクールへの出品(H21～)</li> <li>・消費者との交流(田んぼアート等)による産地のファンづくり</li> <li>・耕作放棄地の解消を目指した農地借り入れ、農作業受託の拡大、受託料金等の見直し</li> <li>・定期的な研修会の開催、生産誘導による人材の育成確保</li> <li>・色彩選別機、食味計等の導入(H21～23)</li> </ul> <p>◆<b>スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水田センサー等を活用した水稻栽培管理の省力化と品質向上の検討(H29、水田センサー100台導入)</li> <li>・水田センサー、ほ場管理アプリケーションの導入(H29)</li> <li>・ドローンによる葉色測定・生育診断</li> </ul> <p>◆<b>おにぎり製造販売事業等による収益拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本山町みらい創造協議会策定委員会によるおにぎり事業展開に向けた検討(R元～)</li> </ul>	<p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <p>◆ブランド米の地位を確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「お米日本一コンテスト in しずおか」で受賞(H22:最優秀賞、H27:金賞、H28:実行委員会会長賞(特別最高金賞))</li> <li>・(一財)日本穀物検定協会の食味ランキングで高知県北地区「にこまる」が特A受賞(H29、30)</li> <li>・米専門店を中心に取引先が全国100店舗以上に拡大</li> </ul> <p>◆生産者価格(玄米一等米)の向上</p> <p>10,000円/30kg(～H28) → 10,250円/30kg(H29～)</p> <p>◆スマート農業の推進</p> <p>水位センサーによる、水の見回り負担の軽減 「ヒノヒカリ」、「にこまる」の収穫適期指標の作成</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者の確保や需要に対する生産量不足への対応</li> <li>・栽培基準の見直し</li> <li>・スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化</li> <li>・農業公社の収益拡大</li> </ul>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
<p>◆ブランド米の生産維持、販売促進</p>	<p><b>「土佐天空の郷」栽培基準の見直し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社： 栽培基準の見直しに関する会議の開催</li> <li>● 県（農業改良普及所等）： 栽培基準見直しに向けた実証支援</li> </ul>		<p><b>見直された「土佐天空の郷」栽培基準の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社： 安定生産支援、販売促進活動</li> <li>● 県（農業改良普及所等）： 個別巡回、現地検討会、個人面談による栽培管理指導</li> </ul> <p><b>生産者の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社： 本山町特産品ブランド化推進協議会役員による新規栽培者への栽培技術指導 農作業受託による作業労力の軽減</li> <li>● 県（農業改良普及所等）： 本山町特産品ブランド化推進協議会役員、公社と連携した生産者募集、栽培技術習得支援、集落営農組織等との連携支援</li> </ul>		
<p>◆スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化</p>	<p><b>品質管理向上及び作業労力軽減技術の検討、普及</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社、本山町： 水田センサーを活用した品質管理向上及び水管理軽減技術、通信費コスト削減等の検討 省力機器の検討及び普及（育苗、田植え、防除等） <u>機器普及のための各種事業等の活用</u></li> <li>● 県（農業改良普及所等）： 企業、関係機関との連携による新技術、各種情報の提供、省力機器等の実証及び導入支援</li> </ul>				
<p>◆おにぎり製造販売事業等による収益拡大</p>	<p><b>おにぎり屋開業の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● (一財)本山町農業公社： 事業計画の策定、おにぎり具材の試作品づくり、試験販売の実施</li> <li>● 県（地域本部等）： 事業計画策定に対する助言、商品開発に関する産振アドバイザー等による支援</li> </ul>	<p><b>開業準備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● (一財)本山町農業公社： おにぎり事業の株式会社設立、おにぎり屋の整備</li> <li>● 県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>	<p><b>おにぎり屋の営業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● (一財)本山町農業公社： PR活動の実施、商品改良</li> <li>● 県（地域本部等）： PRやブランディング戦略に関する産振アドバイザー等による支援、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		

# 修正項目 (案)

修正前

嶺北地域アクションプラン		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.19 嶺北地域の連携による交流人口の拡大 (嶺北地域全域) ※地域産業クラスター関連 (嶺北畜産クラスタープロジェクト)		
実施主体	本山町、大豊町、土佐町、大川村 (中核となる実施主体(広域観光組織)を新たに設立予定)		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	観光を軸として、吉野川の水源地域における豊富な地域資源や特色のある取り組みなどを横断的につなぐ広域観光の推進により、「れいほく」の魅力をグレードアップさせるとともに、一元的な情報発信や教育旅行の誘致を通じて、交流人口の拡大と経済の活性化を図る。		

指標	出発点	実績				目標
		R2	R3	R4	R5	R5
(1) 主要観光施設の入込数	284,813人 (H27~29平均)					391,000人
(2) 主要宿泊施設宿泊者数	14,577人 (H27~29平均)					25,000人
(3) 民泊受入世帯数	89世帯 (H30)					120世帯

これまでの主な動き	
<p>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</p> <p>◆<b>広域観光推進体制の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嶺北地域観光・交流推進協議会の設立 (H22)</li> <li>・大学等と連携した旅行商品の磨き上げの取り組み (H22~29)</li> <li>・広域観光パンフレットの作成 (H22~)</li> <li>・広域で連携したイベント(土佐の豊穰祭 in 嶺北)の開催 (H23~)</li> <li>・ガイド研修、モニターツアー等の実施 (H22~)</li> <li>・広域観光組織の機能強化に向けた視察研修の実施 (H28)</li> <li>・土佐れいほく博推進協議会を設立 (H30.3月)</li> <li>・土佐れいほく博公式ホームページやSNS、テレビ等メディアを活用した嶺北地域の情報発信(H30、R元)</li> <li>・土佐れいほく博観光コーディネーターによる旅行会社へのセールス、観光商品の磨き上げ (H30、R元)</li> <li>・土佐れいほく博終了後の広域観光の推進に向けた協議の実施 (R元)</li> </ul> <p>◆<b>教育旅行の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行会社等への教育旅行のセールスの実施(H27~)</li> <li>・教育旅行の受け皿となる民泊の研修会の実施 (H25~)(H28:3回、H29:2回、H30:11回)</li> </ul>	<p>&lt;主な成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆大原富枝文学館入込数 H24~27平均:1,268人 → H30:5,041人</li> <li>◆教育旅行受入件数 H28:5校164人 → H30:15校972人</li> <li>◆土佐れいほく博の開催 (R元.7~12月) 主要観光施設入込客数(R元.7~11月): 130,183人(対前年同期比:111%) 主要宿泊施設宿泊者数(R元.7~11月): 8,110人(対前年同期比:135%) ツアー催行本数(参加人数)(R元.4~12月): 60本(1,406人)</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域観光を担うコーディネート組織の機能強化及び人材確保</li> <li>・土佐れいほく博で得た成果の継続・発展</li> <li>・教育旅行の受入拡大</li> </ul>

## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ 広域観光推進体制の強化	新たな広域観光組織の体制整備		組織体制・機能の強化		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 嶺北4町村： 広域観光組織の体制整備、事業戦略の策定、事業実施に必要な人材の確保</li> <li>● 県（地域本部等）： 補助事業による支援、コーディネーターやアドバイザーの派遣による支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 嶺北4町村、新たな広域観光組織： 新たな広域観光組織での計画に基づく戦略的な取り組みの推進</li> <li>● 県（地域本部等）： 補助事業による支援、コーディネーターやアドバイザーの派遣による支援</li> </ul>		
嶺北地域が一体となったプロモーションの展開、セールス活動					
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 嶺北4町村： 4町村が一体となった広報PR、セールス活動、HP、SNS等を通じた嶺北地域の情報発信</li> <li>● 県（地域本部等）： 補助事業による支援、コーディネーターやアドバイザーの派遣による支援</li> </ul>					
◆ 教育旅行の推進	推進方針の検討		教育旅行の広域化の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 嶺北4町村： 広域観光組織の体制整備と合わせた今後の教育旅行（民泊等）推進方針の検討</li> <li>● 県（地域本部等）： コーディネーターやアドバイザーの派遣による支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 嶺北4町村： 推進方針に基づく取り組みの実施</li> <li>● 県（地域本部等）： アドバイザーの派遣による支援、関係機関への情報提供</li> </ul>		
	教育旅行の受け皿となる民泊等の推進				
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大豊町： 地域の活動者等との連携による研修会の実施、旅行会社等へのセールスの実施</li> <li>● 県（地域本部等）： 関係機関との橋渡し、情報提供</li> </ul>					
<p>【用語】・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的なSNSとしては、Facebook などがある。</p>					

嶺北地域アクションプラン		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.19 嶺北地域の連携による交流人口の拡大 (嶺北地域全域) ※地域産業クラスター関連 (嶺北畜産クラスタープロジェクト)		
実施主体	◎土佐れいほく観光協議会、本山町、大豊町、土佐町、大川村		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	観光を軸として、吉野川の水源地域における豊富な地域資源や特色のある取り組みなどを横断的につなぐ広域観光の推進により、「れいほく」の魅力をグレードアップさせるとともに、一元的な情報発信や教育旅行の誘致を通じて、交流人口の拡大と経済の活性化を図る。		

指標	出発点	実績				目標
		R2	R3	R4	R5	R5
(1) 主要観光施設の入込数	284,813人 (H27~29平均)					391,000人
(2) 主要宿泊施設宿泊者数	14,577人 (H27~29平均)					25,000人
(3) 民泊受入世帯数	89世帯 (H30)					120世帯

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>広域観光推進体制の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嶺北地域観光・交流推進協議会の設立 (H22)</li> <li>・大学等と連携した旅行商品の磨き上げの取り組み (H22~29)</li> <li>・広域観光パンフレットの作成 (H22~)</li> <li>・広域で連携したイベント(土佐の豊穰祭 in 嶺北)の開催 (H23~)</li> <li>・ガイド研修、モニターツアー等の実施 (H22~)</li> <li>・広域観光組織の機能強化に向けた視察研修の実施 (H28)</li> <li>・土佐れいほく博推進協議会を設立 (H30.3月)</li> <li>・土佐れいほく博公式ホームページやSNS、テレビ等メディアを活用した嶺北地域の情報発信(H30、R元)</li> <li>・土佐れいほく博観光コーディネーターによる旅行会社へのセールス、観光商品の磨き上げ (H30、R元)</li> <li>・土佐れいほく博終了後の広域観光の推進に向けた協議の実施 (R元)</li> </ul> <p>◆<b>教育旅行の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行会社等への教育旅行のセールスの実施(H27~)</li> <li>・教育旅行の受け皿となる民泊の研修会の実施 (H25~)(H28:3回、H29:2回、H30:11回)</li> </ul>	<p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆大原富枝文学館入込数 H24~27平均:1,268人 → H30:5,041人</li> <li>◆教育旅行受入件数 H28:5校164人 → H30:15校972人</li> <li>◆土佐れいほく博の開催 (R元.7~12月) 主要観光施設入込客数(R元.7~11月): 130,183人(対前年同期比:111%) 主要宿泊施設宿泊者数(R元.7~11月): 8,110人(対前年同期比:135%) ツアー催行本数(参加人数)(R元.4~12月): 60本(1,406人)</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域観光を担うコーディネート組織の機能強化及び人材確保</li> <li>・土佐れいほく博で得た成果の継続・発展</li> <li>・教育旅行の受入拡大</li> </ul>

## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
<b>◆ 広域観光推進体制の強化</b>	新たな広域観光組織の体制整備		組織体制・機能の強化		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 嶺北4町村： 広域観光組織の体制整備、事業戦略の策定、事業実施に必要な人材の確保</li> <li>● 県（地域本部等）： 補助事業による支援、コーディネーターやアドバイザーの派遣による支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 嶺北4町村、新たな広域観光組織： 新たな広域観光組織での計画に基づく戦略的な取り組みの推進</li> <li>● 県（地域本部等）： 補助事業による支援、コーディネーターやアドバイザーの派遣による支援</li> </ul>		
嶺北地域が一体となったプロモーションの展開、セールス活動					
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 嶺北4町村： 4町村が一体となった広報PR、セールス活動、HP、SNS等を通じた嶺北地域の情報発信</li> <li>● 県（地域本部等）： 補助事業による支援、コーディネーターやアドバイザーの派遣による支援</li> </ul>					
<b>◆ 教育旅行の推進</b>	推進方針の検討		教育旅行の広域化の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 嶺北4町村： 広域観光組織の体制整備と合わせた今後の教育旅行(民泊等)推進方針の検討</li> <li>● 県（地域本部等）： コーディネーターやアドバイザーの派遣による支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 嶺北4町村： 推進方針に基づく取り組みの実施</li> <li>● 県（地域本部等）： アドバイザーの派遣による支援、関係機関への情報提供</li> </ul>		
	教育旅行の受け皿となる民泊等の推進				
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大豊町： 地域の活動者等との連携による研修会の実施、旅行会社等へのセールスの実施</li> <li>● 県（地域本部等）： 関係機関との橋渡し、情報提供</li> </ul>					
<p>【用語】・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的なSNSとしては、Facebook などがある。</p>					